

## 【ヒトラーの馬に続いてクリムトの 名画の帰還スリリングかな】



10 月初めに池上図書館からメールがはいり、8 頭立ての順番待ちが到着とのこと。期待に違わぬスリリングな展開で無事に奪還されてほっとした。この奪還のニュースは大スクープとして世界中に報道されたとあったが、残念ながら知りませんでしたね。

そこからの連想で「ナチスに略奪された名画を取り返したという実話に基づく映画があったなあ」と、近所の TSUTAYA で探して借りたのが「黄金のアデーレ 名画の帰還」だ。日本公開は 2015 年。8 年も前の映画だったが、こちらにもまた思わぬ偶然から奪還への道が開けるといふスリリングな展開でした。

ウィーンへ旅行した時にクリムトの「接吻」を見て、何枚かハガキを買ったことを思い出した。ということでハガキを取り出して、その絵を裏返して確認してみると現在展示されている場所は映画で紹介されたニューヨークの Neue Galerie とある。

ということで、そんな話があったんだねえ、となんとなくほっとした次第です。

ナチスに収奪された 10 万点に及ぶ美術品の多くは未返還とか。

美術品だけに、ため息が「アー」ト 出てくるばかりかも。



**世界中収奪される美術品 取られた側は 「アー」ト ため息  
収奪でナチスが奪った 10 万点 取られた側の不満は充満**

## 【四年ぶりゲーム教える小学校 生徒にんまり笑学校だ】

10 月 18 日千葉・新検見川駅まで出向き花園小学校で 2 年生 20 人にゲーム講習。コロナ禍の影響で取り止めになっていた学童保育ボランティア活動の復活。四年ぶりのゲーム講習に燃えた今回、簡単なサイコロゲームを遊んで貰おうと大奮発することにした。

ここ数年に亘り「少しはゲームも処分したらどうなの」と言われているので、これまで買い込んでいたサイコロを子供達に配ろうと決めた。併せて数字が書かれたシールをハガキに張り付けてゲームに使えるようにしたり、サイコロを振るための布をハンカチサイズに切って、全員に持ち帰って貰うことにした。

思わぬプレゼントに興奮気味の子供達を見て、「これで少し断捨離になるかも」と小生もニンマリ。

四年ぶりの復活ゲーム講習は、これまでで一番人気のサイコロゲーム「シャット・ザ・ボックス」のチーム対抗戦。3, 4 人でチームを作って貰い 6 チームが大中小のゲームを 1 回ずつチャレンジするというもの。全員が 3 種類プレイすると時間が足りなくなるので、苦肉の策なのだが、意外とチーム対抗は燃えるものがある。

サイコロを振り、出た目に応じて 1~9 迄の数字のどれかをシャットして 9 回で 9 枚シャットできれば、パーフェクトという遊び。簡単なようだが、なかなか最後までたどり着けない。

今回も 6 チーム×3 種類=18 回のチャレンジで、パーフェクトはでなかった。あと一枚が何回かあったが、出たのはため息。

講習の最後にみんなの前でパーフェクトを見せようと小生も頑張ったが駄目だった。そこで、最後は「全員におまけでサイコロ 1 個あげるから、よろしく」と言うと、みんな大喜び。子供達の笑顔も見て、小学校は笑学校という感じになった。



**賽の目はかなわぬものと知る遊び 昔も今もこれから先も  
賽の目はかなわぬものよ昔から 再々振れど望む目は出ず  
楽しみは四年ぶりのボランティア 小学生と賽を振るとき**

お写落日記 余話

2023年10月20日 @ TEAL GREEN (お茶が飲める絵本書店) で山本けんぞうさんと遭遇。  
昭和60年(1985年)頃にNHK入社して2004年退局して、詩人・作家となっている方です。  
伝笑鳩409号を手渡ししまして、ジョークサロンのホームページをご覧くださいと話しました。  
その返事メールが届きました。



平凡社

この絵本の本文を書いたとか。  
他にも この本も。



平凡社

山本けんぞう さんからの メール  
ジョークサロン・伝笑鳩409号へのエールです  
野本浩一さま

メールありがとうございます。  
ティールグリーンで、偶然お会いできて、楽しいひと時をご一緒できて、とても嬉しかったです。  
「伝笑鳩」拝読し、また newjokesalon のホームページも拝見いたしました。  
たくさんのお仲間との旺盛なご活動、みなさまの溢れるユーモアとポジティブなエネルギーに、  
感銘を受けました。  
これからも貴ホームページを拝見していきたいと思えます。  
またいつか、お会いできますのを、楽しみにしております。

やまもとけんぞう  
iPhone から送信